

幼児期における防災・減災教育[†]

—減災絵本「リオン」を使った取り組み—

長谷川万由美*
宇都宮大学教育学部*

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第4号 別刷

2018年2月28日

幼児期における防災・減災教育[†]

—減災絵本「リオン」を使った取り組み—

長谷川万由美*
宇都宮大学教育学部*

幼児期の教育における防災・減災教育の必要性については、幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」にも触れられている。しかし、避難訓練や教訓的な教材では災害への不安を必要以上に喚起させる可能性がある。保育環境を通じて自然と子どもが危険や災害への対処がわかり行動できるようにするため、絵本を使って子どもも参加できる防災・減災教育を行った。普段から絵本を身近に置いておくことにより絵本になじみ、安心して活動に参加する様子が観察できた。

キーワード：幼児期の防災・減災教育、絵本、紙芝居

1. 幼児期の教育と防災・減災

(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針の防災教育

東日本大震災を受けて、防災・減災教育の重要性が改めて強調されてきている。2012年7月に発表された「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」最終報告でも、学校教育における防災教育に関する記述の中で幼稚園については発達の段階ごとに、必要な知識を身につけ、主体的に行動する態度を育成するための具体的な内容として「幼稚園段階では、危険な場所や事物などがわかり、災害などの緊急時に、教職員や保護者の指示を受けて、落ち着いて素早く行動できるようにする」ことを目標とすることが示されている。

以前から、幼児期の教育における防災教育の必要性については、幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」に取り入れられている。幼稚園教育要領（平成29年告示）の健康〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う〕では、ねらいとして「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する」が挙げられ、その内容として「危険な場所、危険な遊び方、

災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する」とされている。また内容の取扱については「安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などがわかり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害時に適切な行動がとれるようにすること」とされている。

また、保育所保育指針（平成29年告示）では保育の目標の一つとして「健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと」が挙げられており、三歳以上の保育に関するねらい及び内容では、ねらいとして幼稚園教育要領と同様に健康[健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う]のねらいとして「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する」が挙げられ、内容として「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する」が入っている。また内容の取扱いは幼稚園教育要領と同じ内容が規定されている。幼児期という発達段階に応じた防災・減災教育が必要とされていることがわかる¹。

[†] Mayumi HASEGAWA*: Preschool Education for disaster prevention and reduction with Picture book "Disaster Reduction Book Rion"
Keywords: education for disaster prevention, picture book, preschool education

* School of Education, Utsunomiya University
(連絡先: mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

¹ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）でも同様の内容となっている。

(2) 環境と遊びを通した防災・減災教育

幼児期の教育は、環境を通じて、また遊びを通して行われるのが基本である。幼稚園教育要領及び保育所保育指針でも「安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること」とあり、遊びを通して安全についての構えを身につけられるような防災・減災教育を考えていく必要がある。

幼稚園、保育所では教訓的な内容の防災絵本や紙芝居を読んだり、定期的な避難訓練を行ったりすることが一般的である。避難訓練や教訓的な教材は災害の恐ろしさや身近な危険を強調することにより、子どもの防災意識を高め、災害への予防行動や避難行動につなげようとするものである。しかし、幼児期は現実と想像との区別がまだ難しい発達段階にあり、災害の恐ろしさを伝える方法やその内容を十分に吟味しなければ不安を与えるだけになりかねない。

西館他（2014）は東日本大震災以降の幼稚園・保育所における避難訓練の変化を調査した結果、「被災地の周辺だけでなく遠方地域においても、震災後に避難訓練を過度に怖がるようになった子どもがいたこと」を踏まえ、「東日本大震災において大きな揺れ等を直接に体験していなくても、何らかの形で震災について間接的な体験を持つ、それが防災教育を受けた際の強い恐怖や不安を引き起こすきっかけとなる可能性」があることを指摘している。間接的な体験には、先生や親からの話、テレビなどからの情報も含まれる（西館他、2014：174）。幼児期の子どもに対する防災教育の課題として「大きな災害が起こった直後の教育では、たとえ被災地から離れていたとしても、子どもの恐怖を過渡に引き起こさない内容や方法を用いることと、子どもが示す恐怖反応への対応が必要」となることを指摘している。

以上のことから幼児期の防災・減災教育においては、幼児が保育環境を通して災害について学ぶことができ、かつ、不要な不安を煽らないような内容の教材が必要と考えられる。

(3) 幼児に適した防災・減災教材の検討

遊びを通して学ぶものとして防災ゲームがある。子ども向けの防災ゲームとしては、防災の知識や技術がわかりやすいイラストで書かれたカードを用い

る「シャッフル」(株式会社幻冬舎エデュケーション、対象6歳以上)、災害で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題し、解決のための「なまずカード(アイテムカード)」を出してもらい得点を競う「なまずの学校」(NPO法人プラス・アーツ、対象8歳以上)、防災に関するキーワードを集めていく「みんなで遊んでたすカルテット」(NPO法人プラス・アーツ、対象5歳以上)などがあるが、幼児教育で用いるには対象年齢がやや高く、幼稚園や保育所で行うには数を揃えるなど制限も生ずる。またゲームを通しての効果はあるものの、時間が経つにつれ、記憶も薄れ、その効果は一時的なものとなりがちである。

幼児の発達段階を考えれば、日常的に防災・減災につながる教材に触れることを通して自然と防災・減災の心構えが身につくことが望ましい。そのような考えから、遊びの要素を含み、子ども自らが保育環境の中から災害時などの行動の仕方がわかる、自分の安全の見通しを持って動けることを目的として、絵本を使った幼児に対する防災・減災教育を試みることにした。

2. 減災絵本「リオン」とその展開

(1) 減災絵本「リオン」

従来の防災絵本では、子どもに知識や行動の仕方を伝えるために必要なことではあるが、教訓や「こうしないと大変なことになる」というメッセージが強ク伝わってしまい、絵本としての楽しみが減じられてしまう面があった。幼児教育としての防災・減災教育ということを考えると、やはり遊びの中から自然と学びたくなる絵本としての温かみも持った教材でなければ、何度も繰り返し読み返して、知識や行動が定着することにつながらないのではないかと考えた。2017年の第3回国連防災会議に参加した折、関連イベント「パブリックフォーラム」で実施された「減災絵本「リオン」活動報告セミナー」で、「減災絵本「リオン」」(以下、単に「リオン」とする)の活用事例に触れ、絵本としても魅力のある「リオン」を生かした防災・減災教育を企画することにした。実施にあたっては本学教育学部総合人間形成課程プロジェクト研究ⅠおよびⅡの授業の一環として、企画・準備・実施を受講する学生とともに行った。

「リオン」は特定非営利活動法人防災士会みやぎ(以下、防災士会みやぎとする)により東日本大震

災後に作製された絵本である。東日本大震災では466人もの10歳未満の児童が亡くなったとされたことに対して、とりわけ幼い子ども向けにわかりやすく自然災害のメカニズムを説明する絵本を作製したいとの意図の元、企画された。自然災害の恐ろしさを表現するだけでなく、普段の自然の姿や自然の恵みも同時に学べる内容となっている。たんぽぽの綿毛の妖精リオンというキャラクターが登場し、地球上を旅する設定を通して、子どもがリオンと一緒に地球上のさまざまな場面を体験でき、子どもがこわがることなく、リオンが危険を知らせてくれる作りとなっている。



図1 「リオン」表紙



図2 自然の恵み(左)と自然の脅威(右)としての風

左のページに恵み、右のページに災害として自然を表したり、津波の高さを2ページを利用して表したりレイアウトも工夫されている(図2、図3参照)。またメインのストーリーの他に、工夫された絵や文章のパーツが各ページに散りばめられており、子どもそれぞれの気づきや発想で話を膨らませている工夫がされている。内容の概要は表1のようになっ

表1 「リオン」の内容

ページ	内 容
1-2	おだやかな母子の風景
3-4	様々な自然現象に覆われている地球
5-6	日常生活と地震の様子
7-8	海水浴の様子と曳き波と津波
9-10	田んぼに降る雨と大雨土砂崩れ
11-12	そよ風と台風
13-14	雪だるま作りと大雪のなだれ
15-16	温泉と火山
17-18	夕食後の団欒と停電
19-20	リオンに囲まれる母子

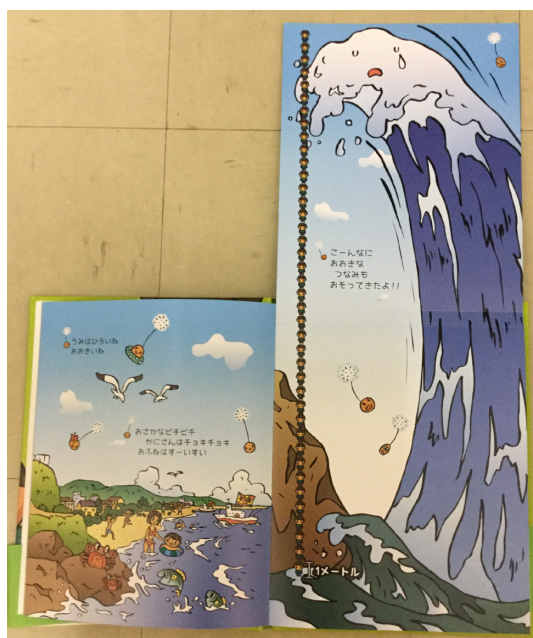


図3 縦に二倍のページで津波を表現

ている。この「リオン」を用いて音楽とデジタル絵本を使った防災教育の取り組みを行うこととした。

(2) 減災絵本「リオン」を使った幼児教育の試み

①楽器を使った「リオン」の活用

まず「リオン」に子どもたちが親しむことを目的として2015年11月から翌年3月にかけて、宇都宮大学まなびの森保育園で、月に一回行われる避難訓練の後、年長児、年中児クラスで「リオン」の読み聞かせを担当保育士に読み聞かせをしてもらった。「リオン」は他の絵本と一緒に本棚に置き、いつでも子ども達が読めるようにしておいた。

3月には年長児を対象として、ドラムサークルと

いう輪になって打楽器を叩くことでアンサンブルを楽しむリズム遊びの中でリオンの内容を音や動作で表現する活動に取り組んだ²。まず、輪になって座り、目をつぶっている子どもたちの頭の上でオーシャンドラムを音をさせながら、最初はゆっくり、後にだんだん早く、強くドラムを動かしていくことで、変化していく風雨をイメージとして捉えさせた³。その後、雨のページを読みながらだんだん強くなる雨足や風を子ども自らが打楽器で表現することで、自然が変わりやすいことや天候が荒れているときの様子などを子どもに印象づけた。単なる読み聞かせだけでなく、音感や触感と合わせることで、こどもたちに効果的に内容を印象づけられた。また、何度かの読み聞かせと教室にも普段からリオンが置いてあることで、絵本を見て「リオンだ!」と言う子どもおり、安心して落ち着いた環境で取り組むことができた。普段から親しむこと、そして遊びの中で取り組むことで、こどもたちの自然災害への関心が高まり、内容の理解、定着が促進されることがわかった。



図4 減災絵本『リオン』を楽器を使って表現

②デジタル紙芝居版「リオン」

絵本の限界の一つに人数が多くなると見づらい、声が届きにくいという物理的な問題がある。とくに「リオン」は子どもの気づきやアイデアを引き出すために工夫された絵や文章のパーツが各ページに掲載されているが、集団に対して読み聞かせをする場合、なかなか細かい工夫に気づかせることは難

しい。

そこで、「リオン」の各ページをスキャンして、PowerPointを使ってデジタル紙芝居に加工した「リオン」で読み聞かせを行うことを企画した。、拡大される絵に合わせて主人公の母子とリオンをイラストに描き大型の紙人形を作成した。また、子どもに覚えてもらいたいフレーズを「リオン」のページの間に挿入することで、災害への心構えを子どもたちに定着させる工夫を行うことにした。

2016年9月に宇都宮大学まなびの森保育園年長児クラスでデジタル紙芝居を使ってのリオンの読み聞かせを行った。デジタル紙芝居の作成にあたっては防災士会みやぎの承諾を得て、「リオン」をスキャンしたものを利用した。対象児は前年度に担任がリオンの読み聞かせをしていたクラスだったため、映し出されたリオンを見ると「リオンだ」「知ってるよ」という声があがった。普段から知っている「リオン」で何をするのかと子どもたちがワクワクしながら学生たちの活動に集中できていた。

学生が中心となってプロジェクターでの投影画像に合わせて絵本の主人公の紙人形を使ってセリフを言ったり、BGMや楽器を使って、風雨などの音を表現したりしながら臨場感を高めて、進行していった。視覚的に大きく映し出されたデジタル紙芝居の投影画面に合わせて大きく作った紙人形でのペープサートというアイデアは良かったのだが、ペープサートで画面に影ができてしまった。ペープサートを独立して行なおうとしたが、投影のために室内を暗くしなければならなかったため、ペープサートが暗くて見えないという課題が残った。



図5 登場人物のペープサート

² ドラムサークルの実践内容については長谷川・三原(2017)を参照のこと。

³ オーシャンドラムとは直径30センチほどの両面張りのフレームドラムの中に豆や砂を入れたもので、傾けると中の豆などが転がり波のような音色が奏でられる。

スライドは子どもたちとの相互のやりとりも考えられたため、「リオン」のすべての内容を入れるのではなく、栃木県の年長児にとくに必要と思われる内容に絞った。図6にあるように、「リオン」のページをスキャンで取り込んで作ったスライドの間に、「リオン」の中の言葉からとくに覚えて欲しいものを取りあげてスライドの一枚として挿入し、子どもたちと何度か復唱をして知識として定着することを狙った。

3. 今後の検討に向けて

本論では、幼児が保育環境を通して災害について学ぶことができ、かつ、不要な不安を煽らないような内容の教材として防災士会みやぎが作成した絵本「リオン」を取り上げ、より効果的に子どもの学びが促進されるように楽器を使いながら内容を深く理解する試みとデジタル紙芝居に内容を再構成した試みについて報告した。子どもが楽しみながら自然や災害について理解を深めていく様子が見られ、教材に触れたことで不安を呈する子どもは見られな

			
表紙	リオンとの出会い	様々な自然と地球	日常生活
	からだをまもろう！		
地震		雨の恵み	台風や土砂崩れ
はやめに ひなんしよう！			いへのなかで たいふうがとおりすぎるのを まとう！
	おだやかな風	台風	
		あぶない！ ゆきはすべりやすいよ！！	
スキーや雪だるま	大雪と雪崩		夕食後の日常
	そなえてたいせつだね！		どんなさいがいにあっても いのちをまもろうね！
停電の中、備えを使って		リオンと命をつなぐ	

図6 「リオン」 デジタル紙芝居版（左上から右下の順、キャプションは筆者による）

かった。また、協力頂いた担任の先生からの評価も概ね好評であった。「リオン」が防災・減災という意図以前に絵本としての完成度が高いこと、イベント的な取り組みの時以外にも絵本として親しむことができることから、内容としては災害の危険な場面を含んではいるが、子どもたちが落ち着いて集中することができたと考えられる。

しかし、対象が子どもということもあり、その後、知識としてどの程度定着したのか、また、実際に災害に接して行動できるような心構えができたのかどうかについては検証を行うことができなかった。また今回は年長児を対象として実践を試みたが、年中児、年少児などでも、たんぽぽの綿毛の妖精リオンが物語の語り手となっている「リオン」を使って「リオンが言ってたね」「リオンの絵にあったね」というように話すことで、知識の定着が子どもの不安を引き出すことなく促進できるのではないかと考えている。今後は子どもに対する効果測定やより年齢の低い子どもを対象とした教育の取り組みを検討していきたい。また、「リオン」の内容は日本でよくおこる自然災害の多くを網羅しているが、栃木県でよく発生する竜巻に関する内容が「リオン」には含まれていないため、今後、幼児期の子どもに竜巻の知識や対応を学べるような絵本の作製を検討していきたい。

注) 実践にあたり御協力頂きました宇都宮大学まなびの森保育園、リズム遊びのファシリテーターを担当されたDC-labの三原典子さん、教材となる「リオン」を作製し、本論掲載にあたり、内容をご検討いただきました特定非営利活動法人防災士会みやぎの関係者の皆様に感謝いたします。

参考文献

高橋多美子 (2008) 「地域と連携した幼児期における地震防災教育の普及」『保育学研究』第46巻第2号、299-309

高橋多美子・高橋敏之 (2008) 「幼児期における地震防災教育の実践モデル」『子ども社会研究』14号、105-115

特定非営利活動法人防災士会みやぎリオン作製委員会 (2013) 『リオン』

中津功一郎・石橋健 (2017) 「幼児教育施設の自主防災力向上支援のための基礎的研究」『大阪城南女子短期大学研究紀要』51巻、129-142

西館有沙・徳田克己・安心院朗子・水野智美 (2014) 「震災後の幼稚園及び保育所における防災教育の変化と課題－東日本大震災前後の教育の実施状況と子どもの恐怖反応の有無に関する調査をもとに－」『人間発達科学部紀要』第9巻第1号、165－176

長谷川万由美・三原典子 (2017) 「幼児教育におけるドラムサークルの効果と課題－保育園・幼稚園での実践を通しての考察－」『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』第3号、273-276

東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議 (2012) 「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議最終報告書」

平成29年10月31日 受理

Preschool Education for disaster prevention and reduction with Picture book “Disaster Reduction Book Rion”

Mayumi HASEGAWA*

* School of Education, Utsunomiya University